

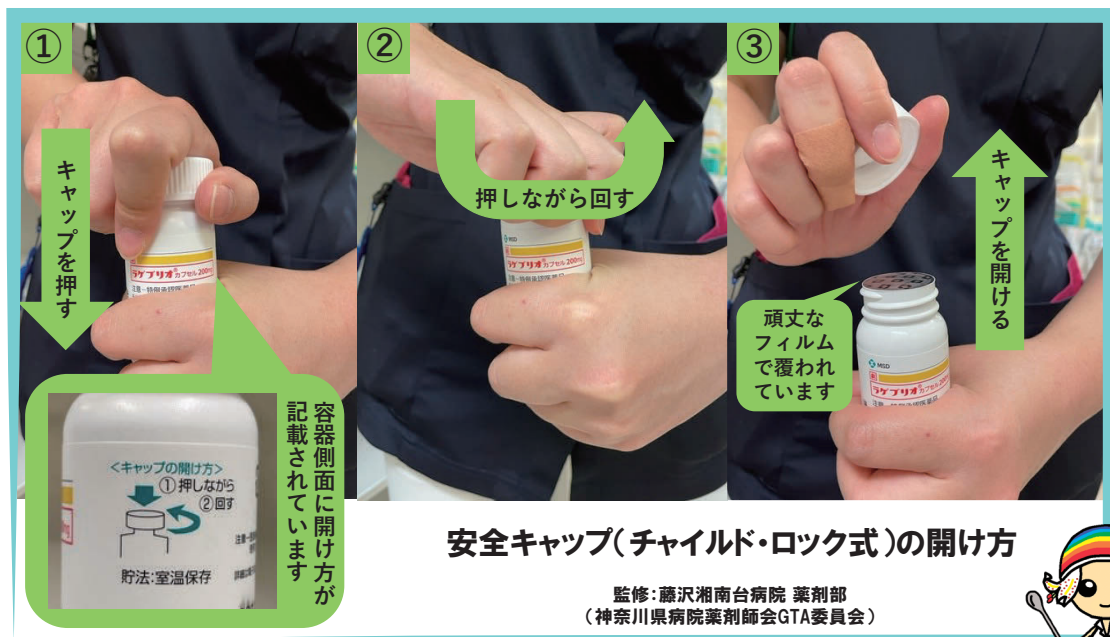
知って安心

あなたのくすりと健康

聞いて安心

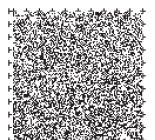
第104号

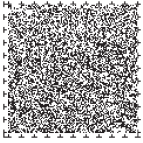
- その薬、眠くなりますか?～アレルギーの薬～…東海大学医学部附属大磯病院 薬剤科 横山 直
- 言葉の違いをご存じですか? : 副作用と副反応…横浜市立大学附属市民総合医療センター 薬剤部 勝亦 秀樹
- 薬によるアレルギーについて…相模台病院 薬剤部 八城 学



＜表紙写真＞くすり Get the Answers かながわ 推進委員会
～新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の経口薬モルヌピラビル (商品名: ラゲブリオ) ～
通常、18歳以上の患者さんは、モルヌピラビルとして1回800mg (4カプセル) を1日2回、5日間服用します。
一般的にモルヌピラビルは、プラスチック容器に充填された状態でお渡ししております。これは、乳幼児の誤飲を防ぐための工夫 (チャイルド・ロック式) ですが、同じように誰にとっても開けづらいともいえます。
モルヌピラビルの容器以外にも、同じ開け方の安全キャップがあります。

私たちは、市民の方々を対象に医薬品や健康に関する正しい知識の普及と啓発を目的とし、この小冊子を発行しています。小冊子には、音声コードが印刷されています。音声読みあげアプリ「Uni-Voice」と活字文書読みあげ装置の両方で使用できますので、ご活用いただければ幸いです。





その薬、眠くなりますか？～アレルギーの薬～

春になるとスギ花粉の飛散がピークを迎え、くしゃみ・鼻水・鼻づまりや目のかゆみなどの症状に悩まされる方も多いのではないかと思います。花粉症などのアレルギーに対して、活躍するのが抗アレルギー薬ですが、代表的な副作用に眠気・倦怠感があり、薬を飲むことを控えている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

■ 眠くなる理由

花粉症などのアレルギーに使われる薬の多くは、抗ヒスタミン薬と呼ばれ、アレルギー症状を引き起こすヒスタミンの働きを抑えることで効果を発揮します。このヒスタミンには脳内で覚醒を維持するという役割もあり、脳内でヒスタミンの働きを抑えてしまうことで眠気や倦怠感などの副作用が発現します。そのため、従来よりも脳内でのヒスタミンの作用が減るように改良された抗ヒスタミン薬（第二世代）が近年ではよく使用されています。

■ 抗ヒスタミン薬の分類

第一世代：昔から使用されているアレルギーの薬で、ジフェンヒドラミンやクロルフェニラミンなどがこれに分類されます。眠気が出るのが非常に多いため、睡眠改善薬として市販されているものもあります。もう一つの代表的な副作用である抗コリン作用（喉の渇きなど）も出やすくなっています。

第二世代（抗アレルギー性）：第一世代と同様に眠気などの副作用をある程度持っていますが、抗コリン作用が弱められています。アゼラスチンやケトチフェンなどがこれにあたります。

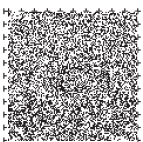
第二世代（非鎮静性）：抗アレルギー性と比較して眠気などの作用が非常に弱くなったものになります。中でもフェキソフェナジンやビラスチンなどは、医薬品の説明書にあたる添付文書で自動車などの運転に制限がされていません。一部の薬は医師の診察を受けることなくドラッグストアなどで購入可能となっており、テレビなどの宣伝で「眠くなりにくい」を売りにしています。ただし、眠気などの副作用には個人差があるため、特に初めて服用する場合などは、体調に変化がないか注意していただくようにお願いします。

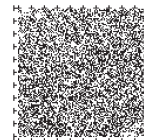
■ 薬を使って花粉症とうまくお付き合いを

抗ヒスタミン薬を服用する時には、注意力の低下や眠気などの副作用が現れることがあるため、自動車などを運転する際には注意が必要です。医師・薬剤師の指示に従っていただくようにお願いします。花粉症では、飲み薬以外にも、点眼薬や点鼻薬を使用することができます。また、IgE抗体療法と呼ばれるアレルギーの原因となるIgE抗体の働きを抑える治療法や舌下免疫療法という根本的な体質改善が期待できる治療法もあります。花粉症や薬による眠気でお困りの方は、医師・薬剤師にご相談ください。



東海大学医学部附属大磯病院 薬剤科 横山 直
参考資料：薬がみえる Vol.2





言葉の違いをご存じですか？：副作用と副反応

新型コロナワクチン接種に関連し、“副反応”という言葉を見聞きするようになりました。「副作用」は知っているけど、“副反応”はあまり聞いたことがない」という方もいるのではないのでしょうか。

今回は、この違いについて紹介したいと思います。



副作用、副反応とは？

いずれも「医薬品の使用後に生じた有害な反応で、その原因が医薬品によると疑われるもの」を指します。

その中で、使用した医薬品がワクチンである場合を“**副反応**”と呼びます。

〈なぜワクチンの場合は“副反応”で、その他の医薬品の“副作用”と使い分けるの？〉

- それは、医薬品の働き方の違いに起因しています。

一般的な医薬品 そのまま体に“作用”して、効果を発現

ワクチン そのまま体には作用せず、体の免疫を“反応”させて、効果を発現

- 両者の働き方の違いを踏まえ、医薬品による有害な反応が生じた場合も、“副作用”、“副反応”と使い分けがなされています。

医薬品の使用においては、副作用の発生を完全に排除することはできません。

そのような観点から、「**医薬品副作用被害救済制度**」と呼ばれる制度が確立されています。

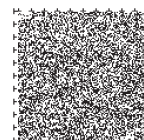
医薬品を適正に使用したにも関わらず、副作用により入院治療が必要になるほどの重篤な健康被害が生じた場合に、医療費や年金などの給付を行う制度です。

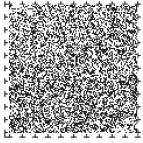
ワクチンによる副反応についても同様に、「**予防接種健康被害救済制度**」が設けられています。

このような制度が存在することも、ぜひ併せてご認識ください。

※医薬品副作用被害救済制度の詳細は、「あなたのくすりと健康 第86号」に掲載されています。ぜひご覧ください。

横浜市立大学附属市民総合医療センター 薬剤部 勝亦 秀樹





薬によるアレルギーについて

「今までに薬によるアレルギーは無かったですか？」と病院や診療所、薬局などで聞かれることがあると思います。アレルギーがある薬を使用する事はとても危険であり、注意が必要です。今回、薬によるアレルギーについて見ていきたいと思います。

■ アレルギーとは

人間には、自分の細胞と外から侵入した異物とを区別し、異物を排除しようとする免疫機能が備わっています。しかし、この免疫機能が過度に反応すると、時には人体にとって有害な症状を起こします。これをアレルギーといいます。原因となる物質(アレルゲン)はダニ、花粉、ペットの毛、食物などさまざまですが、薬も人によってはアレルゲンとなる場合があります。

■ 薬によるアレルギーの主な症状

症状として多いものは、発疹、皮膚や目のかゆみなどです。他にも、気管支喘息を起こしたり、検査で肝機能障害や血液障害が見つかることもあります。また、重篤なアレルギーとしてアナフィラキシーショックがあります。

■ アナフィラキシーショックとは

全身に発疹が出るなどの皮膚症状、唇や舌が腫れる粘膜症状が現れ、なおかつ呼吸困難、気道狭窄、喘鳴、低酸素血症などの呼吸器症状や、血圧低下、意識障害などの循環器症状が見られます。アレルゲンにさらされた後、数分から数時間以内に急速にこれらの症状が現れるのが特徴で、腹痛、嘔吐などの消化器症状を伴うこともあります。気道狭窄や不整脈、動悸や失神などのショック症状によって、場合によっては死に至る危険性があります。

■ アレルギーを起こすことが比較的多いとされる薬

抗生物質、非ステロイド性抗炎症薬、ホルモン剤、酵素製剤、造影剤などは他の薬に比べてアレルギーを起こしやすいといわれています。また、薬に含まれる主成分ではなく薬を加工するのに使用する添加物でアレルギーを起こす場合もあります。

■ 薬によるアレルギーを防ぐには

一度、薬によるアレルギーを起こすと体内にその薬に対する抗体が残るため、同じような薬を使った時にアレルギーを起こしてしまいます。薬によるアレルギーを疑った場合にはすぐに医師や薬剤師に相談してください。また、薬によるアレルギーを起こした場合は、たとえ軽症でもその薬の名前を「お薬手帳」に記録しておき、次に病院や診療所に受診した際に医師や薬剤師にお伝え下さい。

相模台病院 薬剤部 八城 学

《編集後記》活躍する薬剤師を紹介しています。今後も様々な事業を企画してまいります。

《発行》公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 GTA 委員会

〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター 4階

ホームページ <https://www.kshp.jp/>

